

チーム名	チーム初対面ズ	大学・学部	亜細亜大学 経営学部	持続可能な観光まちづくり ステージ
プラン名称	GO TO FUSSA -JAPANESE TOWN LIKE AMERICAN-			
リーダー名	藤崎倅帆	テーマ	①来訪や交流を促進する、ニューノーマル時代を見据えた「観光まちづくり」	観光庁長官賞
指導教職員名	高石光一			
メンバー名	和田諒 石川優花 倉科祐太 荻野宗一郎 川名南美 WEI ZEJIAO			

**定義**

そもそも観光街づくりとは？

その地域の**資源**を利用して  
**魅力**を最大限に引き出す

経済効果や活気を与えその地域に  
住む人たちに  
もっとその地域を**好きになってもらう**

**しかし福生は…？**

友好祭などのイベントに  
集客を頼っている⇒短期集中的な観光客

コロナ禍でイベントが  
軒並み中止になる中で  
福生市の豊富な**観光資源**を最大限に  
活かし、長期的に一定の集客力を  
コロナ禍から目指す

**課題**

- 1.地域の魅力を生かしきれていない
- 2.認知度不足
- 3.イベント頼りの集客

そこで考えたのが…  
**BASE SIDE SQUARE**

**BASE SIDE SQUARE**とは



福生のベースサイドストリートと類似した  
米軍基地付近の4つの商店街を連携させるプラン

**共通点が多い＝悩みや問題点も似ているのでは？**  
**連携させるメリットがある**

①4つの商店街の様々な情報の  
載っているWebページを作成



〈完成イメージ〉

②特産品や名物などの交換  
合同イベントの実施など



〈開催イメージ〉



**ベースサイドストリートに  
人を集める！！**

ベースサイドストリートの空き店舗を活用し、  
ベースサイドストリートに限らない福生市内の  
魅力をフルで感じられる「ぐるぐる福生」を作る！

**「ぐるぐる福生」は、ベースサイドストリートと  
福生市内を繋ぐ架け橋となる**

**GO TO FUSSA**

**新規性**

遠く離れた商店街や共同店舗が  
提携する事例は**過去にない！**  
さらに、共通の問題を抱えた商業集積が  
バーチャルに連携する発想も**見当たらない。**

**新規性の高いプロジェクト！**

**実現計画**



**効果**

コロナ時のベースサイドストリートでの  
地域の店舗間連携による販売効果は  
**5年間で2億4000万円**  
コロナ後のベースサイドストリートでの  
来街者増加による経済効果は  
**5年間で4億9600万円**  
外部との協力と既存の福生市の**観光資源**を  
最大限に活用し、**課題を解決！**  
**イベント頼りではなく、既存の魅力**を  
活かした**新しい福生市へ！！**